

国土交通省が8月8日、羽田新飛行ルートについて「地元の理解を得た」として来年3月29日から運用を開始すると発表して以来、航路下の各地で「住民も議会も納得していない」と計画撤回を求める緊急抗議集会や怒りのパレードが相次いでいます。9月の彼岸の連休には、渋谷区の表参道や品川区天井町でパレードがあったほか、川崎市内でもコンピナート上空飛行ルート撤回を求める緊急集会が開かれました。

表参道にコール

外人観光客や若者が目立つ渋谷区表参道に21日、「おことわり」「うるさい危ない低空飛行」、「東京の空を守る」「守ろう」などと、パレードのポップなコールが響きました。

市民グループ「羽田問題解決プロジェクト」(大村究代表)の主催。初めての企画でしたが、約150人

羽田新飛行ルートに怒り広がる 住民「撤回へ運動広げる」

川崎区民集会で講演する山口元機長 9月23日、川崎市



が参加しました。「低空飛行反対」などと二文字ずつ張り付けた90本の雨傘行列が沿道の人たちの興味を引きました。パレードに先立つ集会では、大村代表の主催者あいさつのあと、国会議員6人が紹介されました。衆議院から立憲民主党的海江田万里、初鹿明博、大河原雅子の各議員、無所属の松原仁議員、参議院から

共産党の吉良よし子議員、社民党の福島瑞穂議員の各氏が発言。新ルートの落下物の危険性や騒音、資産価値の低下などの問題点をそれぞれ強調し、ともに頑張ると表明しました。

19回目のパレード

22日の日曜日、買い物客でにぎわう品川区内の大井町商店街で、19回目のパレードが行われました。主催は「羽田増便による低空飛行ルートに反対する品川区民の会」(秋田操共同代表)。

これまで飛行ルートは、「海から入り、海へ出る」という原則が守られてきました。それが、「増便のため事情が変わった」というだけで反故にされることに。

「こんなことは、認められない」と、初めてパレードを行ったのは、計画が明らかになってきた2015年5月。以来、毎回100人前後の参加で計画反対を

訴えてきました。19回目の今回は国交省が新飛行ルート計画を決定してから初めてのパレード。参加者は少なくなるどころか、従来の2倍の240人が参加。怒りのコールも倍加しました。

パレードに先立つ集会で秋田共同代表は、「私たちは計画撤回まで決してあきらめず、運動をさらに広げていく」と強調しました。

川崎で緊急集会

国が新飛行ルートを決定したことで、川崎コンピナート上空の低空飛行も始まることとなります。コンピナート上空は飛行禁止とした市と国の約束(1970年)が破られ、南風時の午後3時からの4時間に最大80機の出発便がコンピナートへ低空で飛来します。

川崎市川崎区の住民団体「羽田増便による低空飛行に反対する川崎区民の会」(橋孝代表)と区民集会美



行委員会は23日夜、羽田新ルートに反対する緊急集会を開き、150人が参加しました。

橋代表が経過を報告。山口宏弥元日本航空機長が講演しました。元コンピナート労働者の竹内康雄全川崎地域労働組合書記長は、「上空からの落下物の対策はまったくくない」などと火災の危険性を警告しました。

(松橋隆司)

民報号外を発行

羽田新ルート問題の危険性を知らせる「東京民報号外」を発行しました。23区内を中心に都内で約100万枚を配布予定です。入手の問い合わせは03(5972)1621 日本共産党都委員会。